

農業用水情報 No. 3

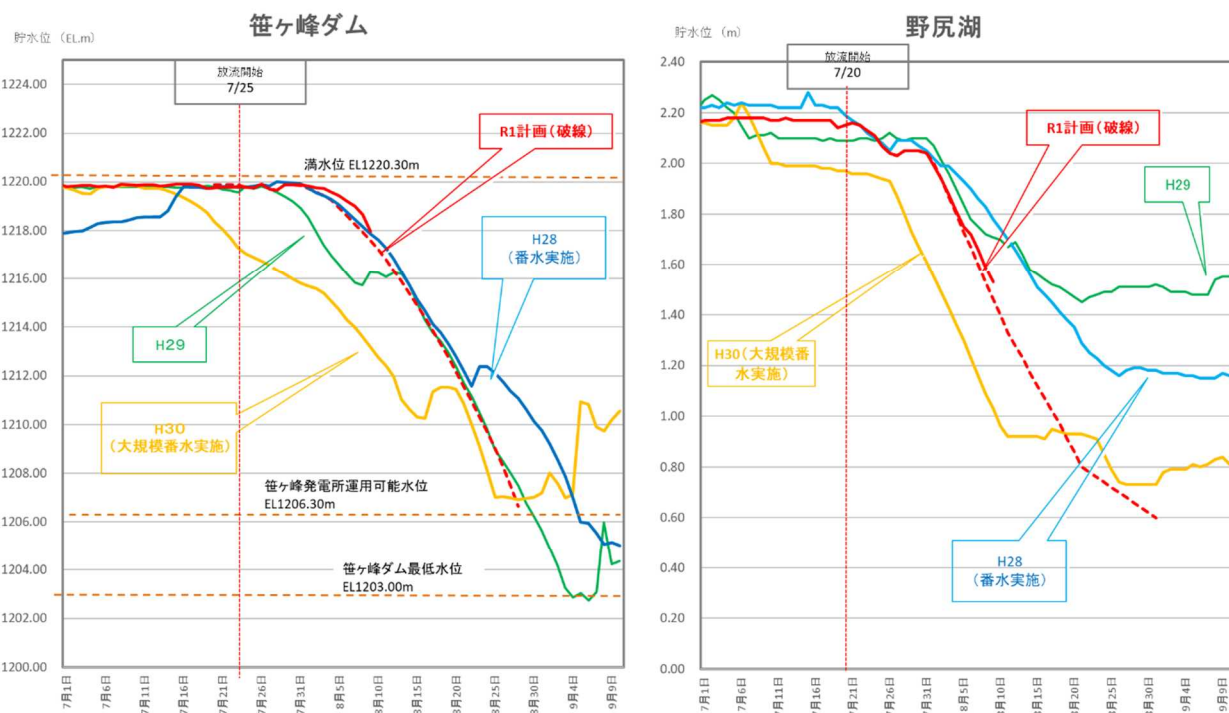
発行：関川水系土地改良区
業務課

TEL：025-522-5723

発行日：令和元年 8 月 15 日

笹ヶ峰ダム・野尻湖の状況 ～8月末まで貯水量確保～

水源である笹ヶ峰ダム・野尻湖は8月末まで貯水量を確保できる見込みです。



■貯水状況			現在 (R1.8.9)			予定 (R1.8.31)	
水源名	満水位	貯水量	水位	満水との比較	貯水量(貯水率)	水位	貯水量(貯水率)
笹ヶ峰ダム	EL1220.30m	920万m ³	1217.97m	▲ 2.33	738万m ³ (80%)	1206.30m	165万m ³ (17%)
野尻湖	2.27m	977万m ³	1.53m	▲ 0.74	650万m ³ (66%)	0.60m	251万m ³ (25%)

組合員の皆様にお願い ～下流域にも公平に用水を～

連日の猛暑により**用水需要がピーク**を迎えていますが、下流域の皆様から少ない用水量に対して、当改良区に苦情が寄せられています。

限りある水資源でありますので、上下流が公平となるよう集落・地域間の連携をお願いいたします。

また、下記のとおり節水にご理解ご協力をお願いいたします。

1. **用水のかけ流し**は絶対に行なわないでください。
2. 各揚水機場については、**稼働日を守り**、かつブロックローテーションにより**効率的なかんがい**を行ってください。
3. **自動給水栓センサー**を設置してください。
4. 畦畔の漏水を確認した場合、**漏水対策**を強化してください。

地域の用水状況に応じて水を有効に使いましょう！

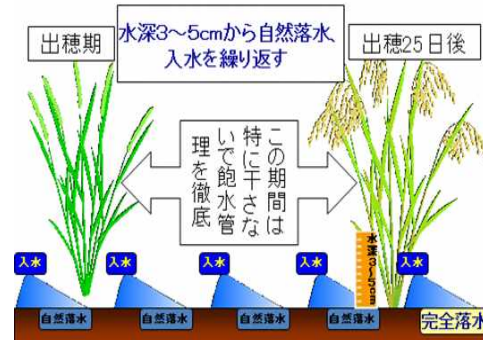
新潟地方気象台の1か月予報（8月1日発表）によると、向こう1か月間は、平年に比べ晴れの日が多く、気温は高い見込みです。**飽水管理で土壌水分の保持**に努め、稲体活力の維持を図りましょう。

また、地域の用水状況に応じて水を有効に使いましょう。

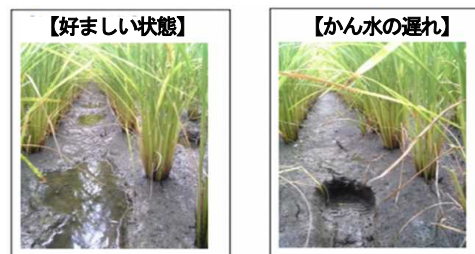
【飽水管理の継続】

○水稻は収穫されるまで根から土壌中の窒素を吸収し続けていますが、ほ場が乾きすぎると、土壌からの窒素供給量が低下し、栄養不足に陥る危険性があります。ほ場が乾きすぎないように、飽水管理を継続しましょう。

○**飽水管理とは、水田への入水後、自然に水が減って田面が露出し、溝や足跡の底に水が無くなる前に入水を繰り返す水管理です。**



【図1 飽水管理のイメージ】

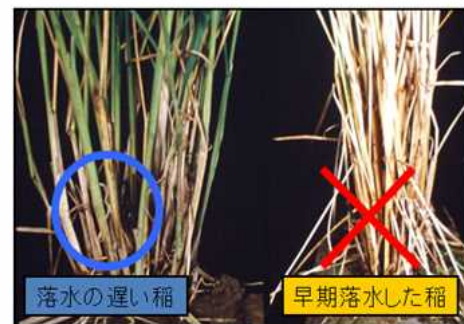


【落水は出穂期 25 日後以降とする】

○**早期落水**は、登熟不良による未熟粒を増加させ、玄米品質・食味を低下させます。また、**下葉の枯上がりや倒伏の発生を助長します。**

○落水は、玄米の粒厚が決まる出穂期 25 日後以降としましょう。

○また、登熟期間が高温で経過する場合は、出穂期 30 日後までかん水し、品質低下を防ぎましょう。

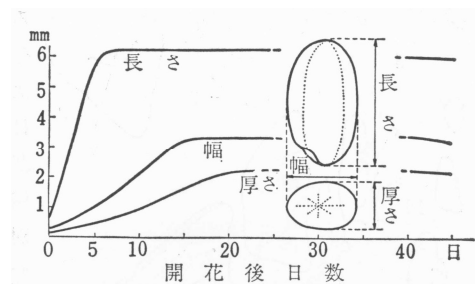


【図2 落水時期による茎の活力の違い】

【フェーン時の水管理】

○フェーン時は急激に稲体水分が奪われ、白穂や着色粒、稔実障害等の障害につながりますので、フェーン現象が予想される場合は、速やかに湛水し、障害発生防止に努めましょう。

○ただし、**高温下での継続した湛水は、根腐れの原因になる**ので、可能な範囲で水の入替えを行いましょう。



【図3 開花日数と稔実】

お問い合わせ：関川水系土地改良区、上越農業普及指導センター、JAえちご上越各営農センター